

H.31



1 1がのの小い森の二ども園だより

<H.31.1.1> (2019年)

あけましておめでとうございます 今年もよろしくお願ひ致します



暮れのざりざり大みえかまで人の出入りや交流があつたのが、となりに住む妹家族も大阪へ行つてるので、父と二人、静かな正月を迎えています。妹の犬(イヴちゃん)は、留守番しています。えさやりや散歩などイヴちゃんとの交流もあるもの。おとなしく全くワン、ともほろろ声を出さないこと、これまた静かな交流となっています。我が家は、こんな感じのスタートです。

さて、小さな森の二ども園は、今年、18年目を迎えます。これまで、ざりざりとつまづいて歩みましたが、今、改めて感じています。今年も、しっかりと歩み始めたいです。

元旦に届いた年賀状の中に、私が、30年前に出会い、多くを学ばせてくれた保育園の園長先生が、くどうなおに詩集刊、抜粋(書かれていたのを読み、今年の初涙がもう出てしまいました。(笑))他にも、身にしみることばかりを聞いてくださる方々があり、二みあけてくるものがあり、元旦でした。

今現代は、スマホ、携帯、ライン、メール、SNS...とで、こぼれが走っています。そのこぼれが、本当の思いや気持ちやぬけをきている現代において、私には思ふのですが、(目に見えないものなご人それぞれがいます...) そんな中、賀状にかいてある私への思いのこぼれはありがたく、響いたことでした。

まずぐについて

いのししさんへ

ぼくのもくひょうは まずぐはしるん
それも ただの「まずぐ」じゃない
うんとまずぐ とにかくまずぐ
ずくまずぐ たしぜんまずぐ
とこもまずぐ しかりまずぐ
じつにまずぐ きっちりまずぐ など
では ようい どん!



今年も、園児数や運営など、いろんな課題多しではありすが、亡き母から、自然体験を教えてもらい、培って生まれた自分の保育の原点はもちつげながら、目の前にはいる子ども達に、自分ができることをおたしていきたいです。母の教えて、おかげで、自分がある。母の存在の大きさを日々強く感じています。だから子ども達にとっても大きな存在であるお母さん達に、この子ども達の生きていく力として、子ども達とたぶり向き合っていたければと思います。そして、私もその応援ができればと思います。

今年、ゆいりは、年長さんになり、最後の年、特に大事になりす。そして、このは、3才児という、一番難しい保育時期でもあり、二人とも大切に、あそび意味、大変で重要な一年です。

うちならでは、じ、クリーン一人一人を丁寧にみつめ向き合う保育で、この一年もずいしていきたいです。そして、あずかり卒園生とも共に育ち合っていたければと思っています。